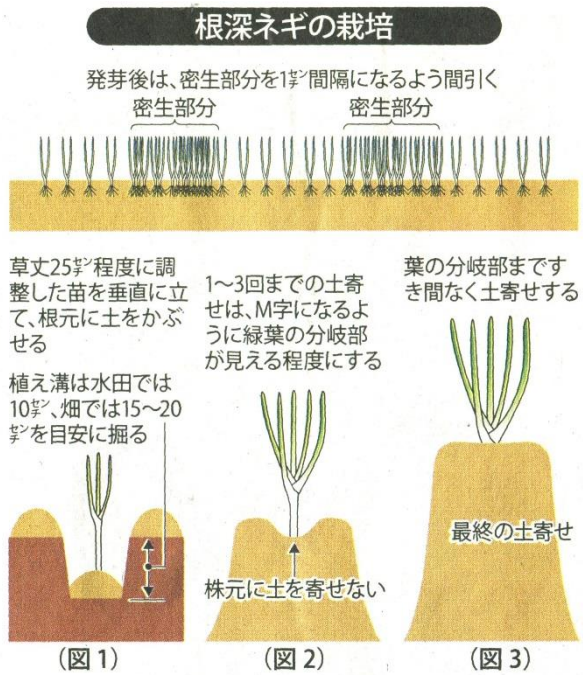
根深ネギ　太さ７ミリ目安に本ぽへ

――橋口健一郎

根深ネギは，中国西部辺りを原産とするユリ科ネギ属の多年生草本で，日本へ千年以上前に伝えられたとされています。ビタミンＢ１の吸収を促し，胃の消化を助けるほか，身体を温め発汗を促進する効果があります。

生育特性は，冬の低温で花芽ができ，春先の高温・長日でとうが立ち（抽だい），ネギ坊主ができます。根深ネギは，栽培期間が長く，葉の根元（葉鞘）部分を白くするために，植え付け後生育に合わせて数回土寄せ作業が必要です。したがって，耕土が深く排水のよいほ場が適しています。今回は夏まき春どりの栽培を紹介します。

発芽は１５～２５度，生育は１５～２０度が適温で，耐寒性は強い作物です。連作障害は少ない方ですが，苗床は連作を避けましょう。種子は抽だいの遅い品種を選び，６月から７月中旬までにまきます。苗床に１平方メートル当たり，苦土石灰１２０グラム，堆肥２キロ，化学肥料６０グラム（窒素，リン酸，カリが１５％の場合）を目安に施します。床幅１２０センチ，高さ１０センチの平うねを作り，条間１０センチ（１０条程度）に深さ１センチのまき溝をつけ，すじまき後覆土し，発芽まで乾燥しないようわらなどで覆います。



発芽後は，密生部分を１センチ間隔になるよう間引きます。追肥は本葉３，４枚以降２，３回に分けて行います（化学肥料１回２０グラム）。草丈が長くなりすぎると倒れやすいので，草丈３０センチを目安に葉切りをします。定植苗の太さは７ミリくらいを目標とします。育苗期間は３カ月程度です。

本ぽの肥料は苗床と同程度の量を，苦土石灰や堆肥は全面に，化学肥料は植え溝幅に散布し混和します。定植はうね幅１００～１２０センチ，株間は１本植えの場合は２．５～３センチ，２本植えは５センチ程度の１条植えとします。植え溝は畑では１５～２０センチ，水田では１０センチを目安に掘り，草丈２５センチ程度に調整した苗を垂直に立て，根元に土をかぶせます（図１）。定植２０～３０日後から，１カ月に１回の割合で３，４回程度追肥（１回２０グラム）し，同時に中耕・土寄せします。

葉鞘部の太り具合を見て土寄せしますが，開始が早く，１回の土寄せ量が多いと細いネギになりやすいので注意します。１回から３回までの土寄せは，M字になるように緑葉の分岐部が見える程度にし（図２），最終の土寄せは，分岐部まですき間なく土寄せすることが大切です（図３）。土寄せ後２０～３０日で葉鞘部が白くなり，長さが３０センチくらいになったら収穫（３～４月）します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室長）

平成２６年６月１２日（木）／南日本新聞